

教育臨床心理学過去問解答

問題1. 最近、多くなってきている乳幼児虐待の問題点を、アタッチメント理論の立場から述べよ。[2009 夏]

両親から虐待を受けた乳幼児は、安定なアタッチメントを形成することができない。それにより、内的作業モデルは他者への不信感に満ちあふれたものとなり、また母親とのアタッチメントを形成できない自己への不信感が生じる。したがって、自尊心に欠け、自己評価が低く、劣等感を持ちやすい性格が形成される。

cf. 生後 1～2 年の乳幼児期の経験がその後の性格形成に与える影響について、生物学的な知見およびアタッチメント理論の観点から説明せよ。[2010 夏]

生後 1～2 年は、精神分析的発達段階では肛門期に該当し、この頃から親による排泄のしつけをされる。排泄による快感を得ようとする欲求は、母親のしつけと対立し葛藤が生じる。このときにしつけが厳しすぎると、リビドーは固着を起し、肛門期まで心理的に退行する結果、不道德的な欲求と敵意が獲得される。また、母親とのアタッチメントが安定的に形成されると、自己肯定的な内的作業モデルが形成され、積極的で、自己肯定的な性格につながる。一方で、安定したアタッチメントが形成されない場合、自己否定的で他者との相互交渉を拒むような内的作業モデルが形成されるため、他者への信頼感を獲得できない、消極的な性格になる。

問題2. 対人恐怖が青年期に起こりやすいのはなぜか。素因ストレスモデルの観点から論述せよ。[2009 夏]

青年期は第二性徴の発現による急激な身体像の変化を契機として、公的自己意識がもっとも高まりやすい時期である。もともと公的自己意識特性という素因を持った人が、他者から見た自己を強く意識せざるを得ない対人場面を頻繁に経験することで、理想の自己と公的自己意識との乖離により不安やストレスを感じるから。

cf. 高校 3 年生のタロウ君は中学校 2 年生ごろから、他人の前に出ると緊張する、人が自分のことを見ているような気がするなどの症状で悩んでいる。そのような症状は、自室に一人でいるときには特に現れないが、学校で教室や廊下で頻繁に現れる。高校 3 年生になったとき、思い切って病院に受診したら「いわゆる対人恐怖ですね。中学生、高校生にこのような症状はよく見られるから心配いりませんよ」と言われた。このようなタロウ君の症状について、素因ストレスモデルという考え方から説明せよ。[2010 冬]

問題3. 今から 100 年ほど前、ヨーロッパ、アメリカにおける女性のヒステリーは高い教育を受けた人に多かった。ところが、第二次世界大戦後、女性のヒステリーは減少し、けいれんや記憶障害などの大きな症状を示すヒステリーはなくなっていった。そして、これに変わって摂食障害が見られるようになり、その後急激に増加していく。このことについて説明せよ。[2009 夏]

20 世紀初頭はまだ女性の社会進出が進んでおらず、女性が高等教育を受けても、その受けた教育を発揮する場が十分ではなかった。教育レベルの高さにも関わらず、その能力を活かせない事との葛藤により、ヒステリーになるものが多かった。しかし、第二次世界大戦後には女性の社会進出が進み、そのような葛藤が減少した為に、女性のヒステリーは減った。一方で、女性が社会に進出するに伴い、女性も社会から有能である事が求められるようになる。自己評価の低い女性は、有能であると見なされる為に、スリムな体型を獲得し維持する事によってその有能性を社会にアピールしようとしたため、摂食障害になる女性が急増した。

cf. ヒステリーや摂食障害のような心因性の精神疾患は時代や社会背景に酔って、その症状や様態が変化する。たとえば 100 年前の女性の場合、ヒステリーは意識消失発作や激しい全身のけいれんといった症状を示す例が多く、摂食障害という病気は極めて稀な病気だった。それが 1950～1970 年代には、意識消失発作や全身のけいれんといったヒステリーは減少し、腐食を主な症状とする摂食障害が急増していった。さらにその後、摂食障害は過食・嘔吐をとまなうものが増えていく。このヒステリーと摂食障害

の一連の様態の変化について、社会的背景と関連して論述せよ。[2010 冬]

問題4. 学校で毎日「ウザい」などということばによるいじめを受けた高校生が、①高血圧、②持病の糖尿病の悪化、③不眠、④胃潰瘍、⑤かぜをひきやすいといった、多彩な身体症状が現れるようになった。このことを HPA 系の反応と神経系のはたらきから説明せよ。[2010 冬]

学校で「ウザい」などの暴言を浴びせられることでストレスを受けると、視床下部が CRF と呼ばれる、副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモンを分泌し、この CRF が下垂体前葉に到達すると、下垂体前葉は副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) を放出する。その ACTH は血流により全身を循環し、副腎に到達すると活性化する。それにより副腎はコルチゾールを血液中に放出し、このコルチゾールは血圧の上昇や等質の増加など多くの作用をもたらす。これらの作用が多彩な身体症状を引き起こす。

問題5. 家庭でネグレクトされた子どもや、かつての施設に収容された子ども（あくまでも「かつての」である。現在は見られない）は、食事を十分に与えられても、発育が悪く体格が小さいことが多い。どうしてこのようなことが起こるのか。そのメカニズムについて、ストレス反応の観点から説明せよ。[2010 冬]

ネグレクトにより親からの愛情を確認できない環境におかれることで、子どもは極度のストレスを感じる。成長やエネルギーの貯蔵などのはたらきに使われる副交感神経の反応はストレスにより抑制されてしまう。さらに、極度のストレスにより睡眠が妨げられるので、睡眠中の成長ホルモンの分泌が低下する。したがって、ネグレクトを受けた子どもは、十分な食事を与えられても発育が悪い。

問題6. うつ病はストレスの多い現代社会では多い病気といわれている。しかし、ストレスの多い環境ではみんながうつ病になるかという、そういうわけではない。うつ病になる人もいれば、ならない人もいる。このストレスが多い環境でうつ病になる／ならないということについて、うつ病の生物学的素因および心理学的素因という観点から述べよ。[2009 夏]

うつ病は生物学的には、ノルアドレナリンやセロトニンなどの神経伝達物質が減少することによって引き起こされる。心理学的には、成功や失敗の原因帰属により説明できる。成功場面で、外的で不安定な帰属をし、失敗場面では、内的で安定な帰属をする人はうつ病になりやすく、逆に成功場面で、内的で安定した帰属をし、失敗場面では外的で不安定な帰属をする人はうつ病になりにくい。

問題7. ①人間の心的機能にはモジュール性があるというモジュール説について、二重の分離という考え方から説明せよ。②モジュール説の立場に立って、アスペルガー症候群について説明せよ。[2009 夏]

①自閉症の子どもは、知的発達に正常であるが、社会的交流ができない一方で、ダウン症候群の子どもは知的発達に問題があるが、他者との交流は行う事ができる。このとき「知能に関するモジュール」と「社会性に関するモジュール」の間に二重の分離が存在するといいい、したがってモジュール説とは心的機能は相対的に独立したいくつかのモジュールにより成立っており、それらのモジュールは独立した機能を持つが、相互連関のうちに機能しているという説である。②アスペルガー症候群の診断基準は、知的な発達の遅れがないにも関わらず、社会的な対人関係において発達の未熟さを示し、社会生活に困難を示すことである。したがって、アスペルガー症候群の患者は、「知能に関するモジュール」に問題はないが、「社会性に関するモジュール」に問題が見られるというふうに説明できる。